

千白香を上げたの昔年の3月1日 ③3152^{P-1/2} 15⁹
 ③3467^P ③3218^{P-3/3} ③3221^{P-1/2}
 3,155^P

紀上527^P 518^P
 紀上527^P 198^P
 紀上453^P

日十大王が銀豊天皇のくは
 銀字は3年迄 ③3254^P

第六十章 仁賢天皇（億計天皇）
おけのすめらみこと

顯宗三年（五〇八か）四月二十五日に、

顯宗天皇（弘計天皇）が崩御された。（既述 第一表参照）

仁賢元年（五〇九か）一月五日 皇太

子 日 億計王は天皇の位に即き、石上広高宮

に都を置かれた。仁賢天皇（億計天皇）とい

う。

すなわちこの当時、東の天子は仁賢天皇であ

り、西の天子は継体天皇であつたろうと思わ

れる。（第一表参照）

＊

欽明天皇誕生
きんめいの たんじょう

年（五一〇か）のことであつたかも知れない

西の天子継体天皇と、手白香皇后（仁賢天

年（五一〇か）のことであつたかも知れない

③315^P 顯宗二年（五〇七）二月十日に奏請
 ③315^P 同年三月五日千白香を上げた
 紀下62^P

皇の娘^{あすめ}との間^{あいだ}に、一人の男の子が生^うれた。
是^{これ}を、天國排開廣庭尊^{あめくたあしはらきひろののみこと}（欽明天皇^{きんめいてん}）と申し
上げる^あ。
なお、欽明天皇の享年^{きんめいてん}について、^{いちだいよう}一代要
記^きに六十二、日皇代記^{にっすいてい}に等^らに六十三、日神
皇正統記^{にっしんこうしゅう}に八十一などとある。^{日本書紀（下）日本書紀（上）}
とある^{とある}。返^{かへ}に、欽明天皇崩^{きんめいてん}五十七年^ほ（紀^き）
享年六十二（一代要記^{いちだいよう}）とすると、欽明天皇
は五十年生^うれである、という^{いう}ことになる。
また、先に、
「継体天皇は、四十七年生^うれであらう」と
述べた。（第五十五章彦太尊誕生^{ひこふどののみことたんじ}）の項
参照^{さうしやう}）
第一表^{だいいちへう}
とすると、継体天皇が四十歳の時に、
天皇が出生^{しうしん}されたという計算^{けいさん}になる。
高^{たか}齢^{れい}になつて得^えた子は可愛^{かわい}いという。継体
天皇は、この子が可愛^{かわい}くて、かたがなく、い
つも左右^{みぎひだり}に置^おいて愛^{うつくし}まれたのだつた。（欽明
即位前^{きていぜん}紀）

③ 3077¹/₄ - 1/4 41トV IF
③ 3163¹/₄ ③ 3163¹/₄ ③ 3077¹/₄ 3,158¹/₄

519 61才 519 60才
459 1 460 1
60 60 59 59 第(頭字) 461年生れか
扶桑略記 23^P
③ 3154¹/₄ - 2/3 ③ 3154¹/₄ - 2/3

F 8/14
8/14

「仁賢」十一年戊寅八月。仁賢天皇
春秋五十歳崩。云々
と記されている。
仁賢天皇の享年は、日扶桑略記
を始めとする諸書の記述よりも十歳上であって
西暦四六〇年生れの六十歳(四六六年当時七歳)の
もしくは、西暦四五九年生れの六十一歳、
だったのかも知れない。(第五十九章入頭宗
天皇崩参照)
つまり、兄仁賢天皇は西暦四五九年あるい
は四六〇年に生まれ、弟頭宗天皇は西暦四六一年
に出生されたのではなかろうか。
なお、前述のように、
「仁賢天皇危篤の報を聞いた西の天子継体
天皇は、手白香皇后(仁賢天皇の皇女)・大
伴金村連らを伴って、東の朝廷へ駆けつけら
れた」とであろうし
と想察される。(第五十六章入大伴室屋大連
大伴金村大連)の項において既述)